

株式会社日本エム・ディ・エム

2025年3月期(第53期)

通期決算説明会

2025年5月14日

代表取締役社長 弘中 俊行



東京証券取引所 プライム市場
証券コード:7600

- 目次 -

1	2025年3月期 通期業績結果	P. 3	-	2025年3月期(第53期)の主な取組み結果	P.19
-	連結売上高	P. 4	-	新製品情報	P.20
-	連結損益計算書	P. 5	-	SAICOプロジェクト取組み状況	P.23
-	前年営業利益比較分析	P. 6	-	コンプライアンス経営の強化	P.25
-	期初予想対比 営業利益比較分析	P. 7	-	サステナビリティを巡る取組み結果	P.26
-	主要品目別連結売上高	P. 8	3	2026年3月業績予想	P.27
日本市場		P. 9	-	前提条件	P.28
-	日本国内売上高	P.10	-	(中間期)連結損益計算書	P.29
-	日本国内売上高【人工関節】	P.11	-	(通期)連結損益計算書	P.30
-	日本国内売上高【骨接合材料】	P.12	-	(通期)主要品目別連結売上高	P.31
-	日本国内売上高【脊椎固定器具】	P.13	-	2026年3月期(第54期)の主な取組み	P.32
米国市場		P.14	-	2026年3月期売上原価率の見通し	P.33
-	米国売上高	P.15	-	設備投資等推移	P.34
-	米国売上高【人工膝関節】	P.16	4	長期VISION「RT500」1st Stage ローリングプラン2028	P.35
-	米国売上高【人工股関節】	P.17	-	定量目標	P.36
2	2025年3月期(第53期)の振り返り	P.18	-	サステナビリティへの取組み	P.37

1

2025年3月期 通期業績結果



当社の製品セグメント



人工股関節



骨接合材料



人工膝関節



脊椎固定器具



日本エム・ディ・エム

JAPAN MEDICAL DYNAMIC MARKETING

東京証券取引所 プライム市場
証券コード:7600

売上高

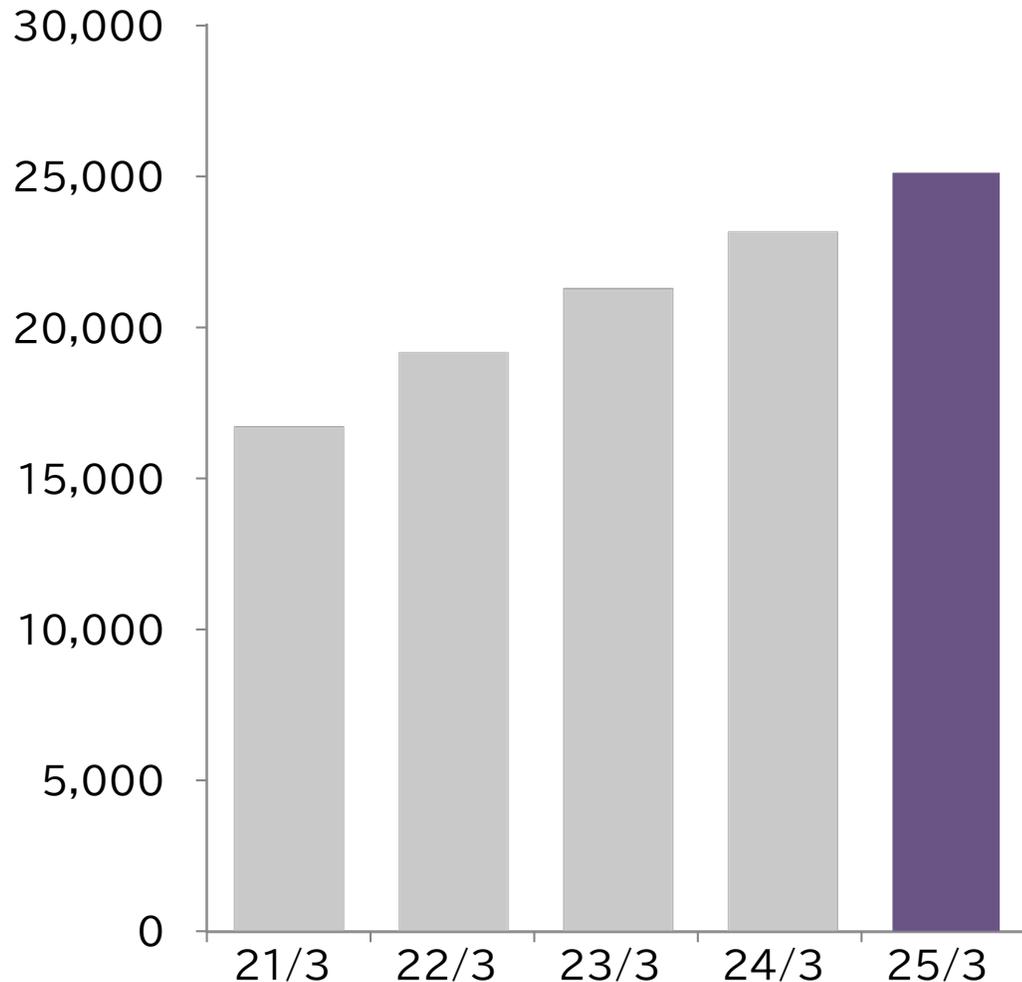
増減率

(単位:百万円)

25,114百万円

(前年同期比+8.4%)

【売上控除後】



通期
最高連結売上高更新

251億円

日本



【売上控除後】

136億円

(前年同期比+4.8%)

米国



【円換算後】

114億円

(前年同期比+12.8%)

(為替影響+6.0億円)

連結損益計算書

(単位:百万円、%)	2025年3月期		前期比増減		2024年3月期	
	実績	売上比	増減額	増減率	実績	売上比
売上高	25,114	100.0	+1,936	+8.4	23,177	100.0
売上原価	9,467	37.7	+1,051	+12.5	8,415	36.3
販管費	14,090	56.1	+1,075	+8.3	13,015	56.2
営業利益	1,555	6.2	▲190	▲10.9	1,746	7.5
経常利益	1,488	5.9	▲354	▲19.2	1,842	8.0
当期純利益※	△ 461	-	▲1,733	-	1,271	5.5

※親会社株主に帰属する当期純利益

前期営業利益比較分析

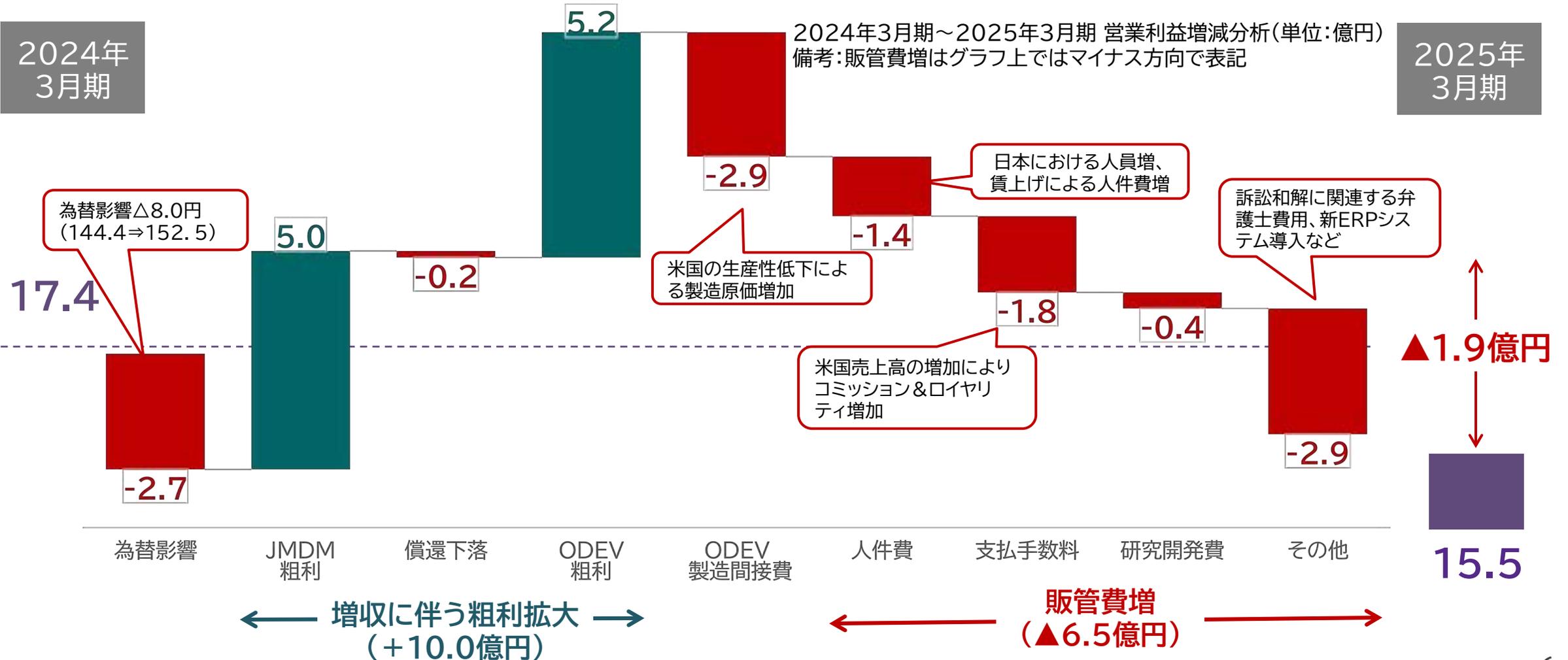
営業利益
15.5億円

増収に伴う粗利(+10.0億円)が拡大したが、原価の悪化、ODEV製品仕入・販管費に関する円安の影響(▲2.7億円)、販管費増(▲6.5億円)により、1.9億円の減益となった

2024年
3月期

2025年
3月期

2024年3月期～2025年3月期 営業利益増減分析(単位:億円)
備考:販管費増はグラフ上ではマイナス方向で表記

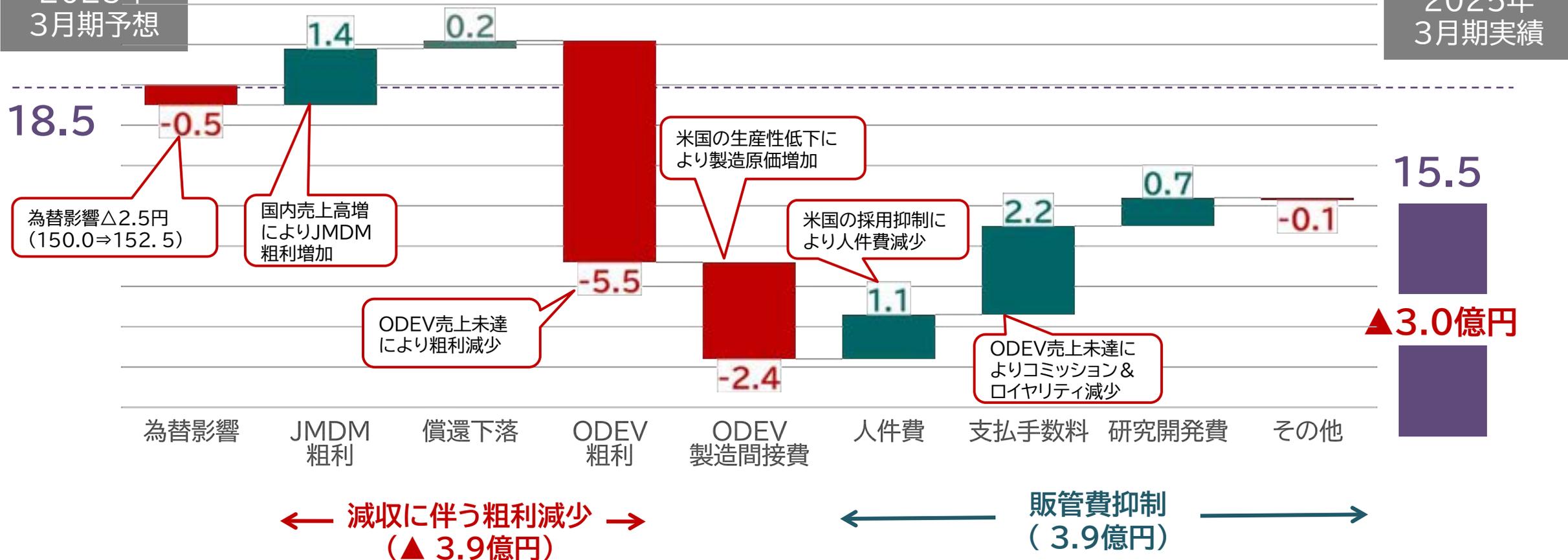


期初予想対比 営業利益比較分析

営業利益
15.5億円

販管費(▲3.9億円)を抑制したものの、主に米国売上高の未達、ODEV社製造間接費増(2.4億円)に伴う粗利の減少(▲3.9億円)により、期初予想比▲3.0億円となった

期初予想～2025年3月期実績 営業利益増減分析(単位:億円)
備考:販管費増はグラフ上ではマイナス方向で表記



主要品目別連結売上高

(単位:百万円、%)	2025年3月期		前期比増減		2024年3月期	
	実績	構成比	増減額	増減率	実績	構成比
日本国内売上	13,634	54.3	+629	+4.8	13,004	56.1
人工関節	5,237	20.9	+304	+6.2	4,932	21.3
骨接合材料	4,653	18.5	+90	+2.0	4,563	19.7
脊椎固定器具	3,543	14.1	+221	+6.7	3,322	14.3
その他	407	1.6	+17	+4.4	390	1.7
小計	13,842	55.1	+633	+4.8	13,208	57.0
売上控除 *3	▲208	▲0.8	▲4	▲1.0	▲204	▲0.9
米国売上 *1	11,479	45.7	+1,306	+12.8	10,173	43.9
人工関節	11,449	45.6	+1,308	+12.9	10,141	43.8
脊椎固定器具	30	0.1	+1	▲5.0	32	0.1
合計	25,114	100.0	+1,936	+8.4	23,177	100.0
自社製品売上	20,443	80.7	+1,693	+9.0	18,749	80.2
USドルベース *2	75,279		+4,830	+6.9	70,448	

*1 期中平均換算レート(円/USドル)

152.50

+8.09

144.41

*2 Thousands of dollars *3 売上控除:収益認識基準適用に伴う控除

日本市場





売上高

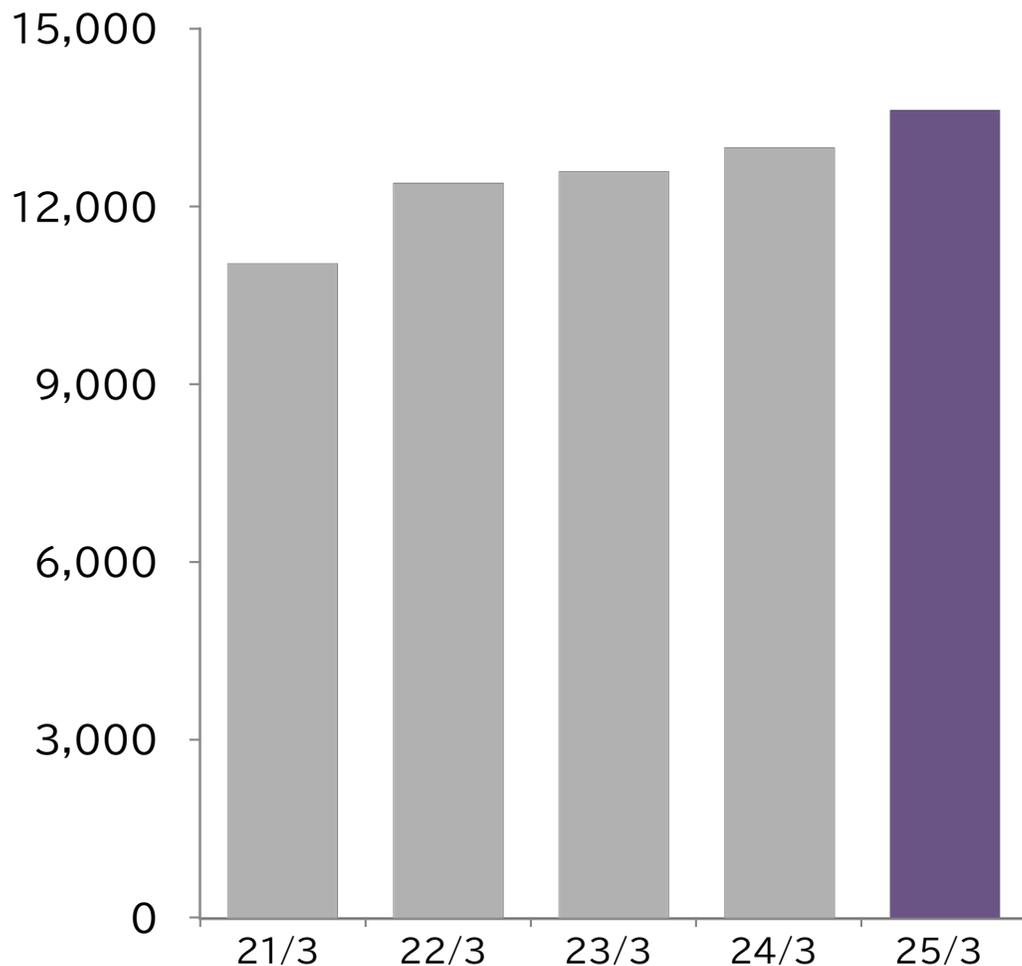
13,634 百万円

増減率

(前年同期比 +4.8%)

(単位:百万円)

【売上控除後】

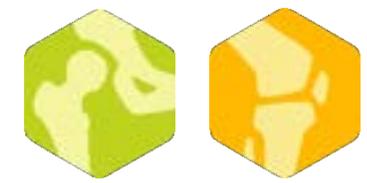


振り返り

■ 通期最高売上高更新

全ての治療材料分野で獲得症例数が増加し、前年同期比+629百万円(同+4.8%)となった。

- 2024年に実施された償還価格引下げ等による売上高への影響は、前年同期比▲15百万円(同▲0.1%)であった。



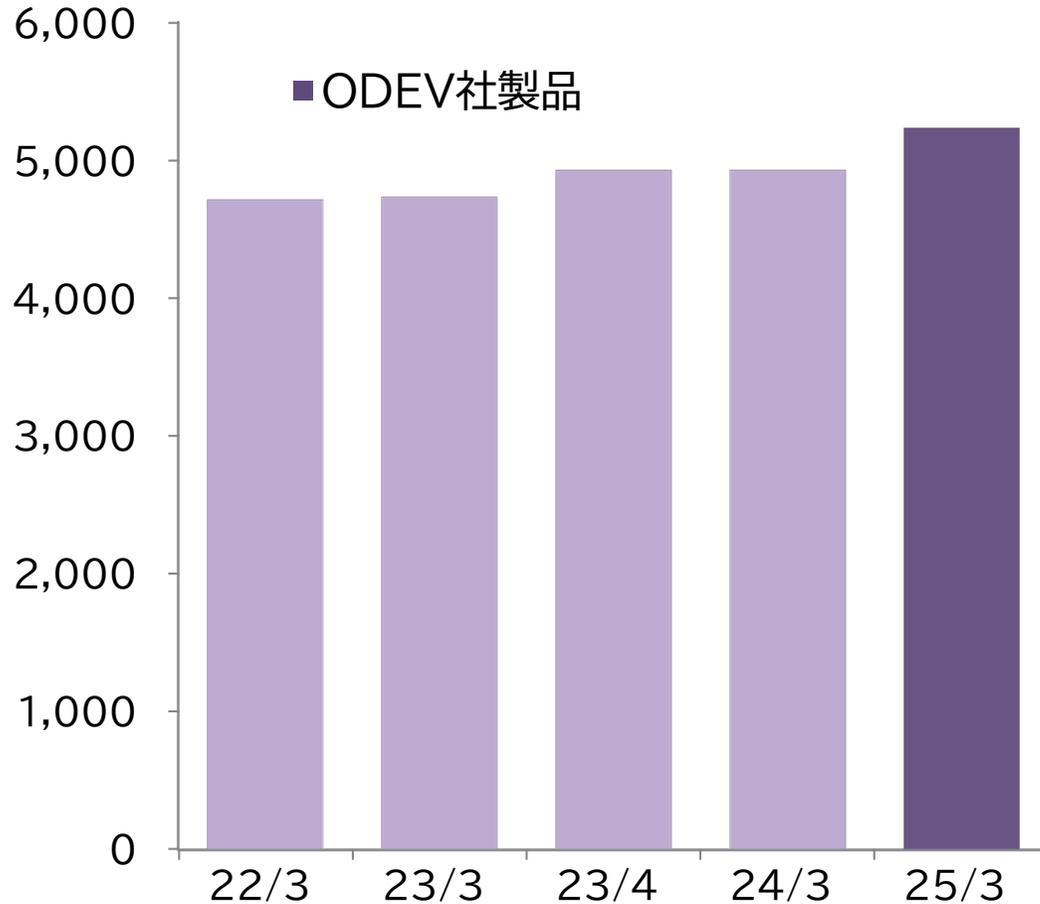
売上高

5,237百万円

(前年同期比+6.2%)

増減率

(単位:百万円)



振り返り

【人工股関節】 前年同期比プラス成長

- 新製品Promontory Hip Stemの獲得症例数が増加
- BHA(人工骨頭挿入術)は2桁成長

*1 BHA:Bipolar Hip Arthroplasty

主力製品

新製品



Entrada Hip Stem

2桁成長



Promontory Hip Stem



Ovation Tribute NEO Stem

【人工膝関節】 前年同期比マイナス成長

(2025年3月発売)

主力製品

新製品



BKS TriMax

微減



Balanced Knee System Uni



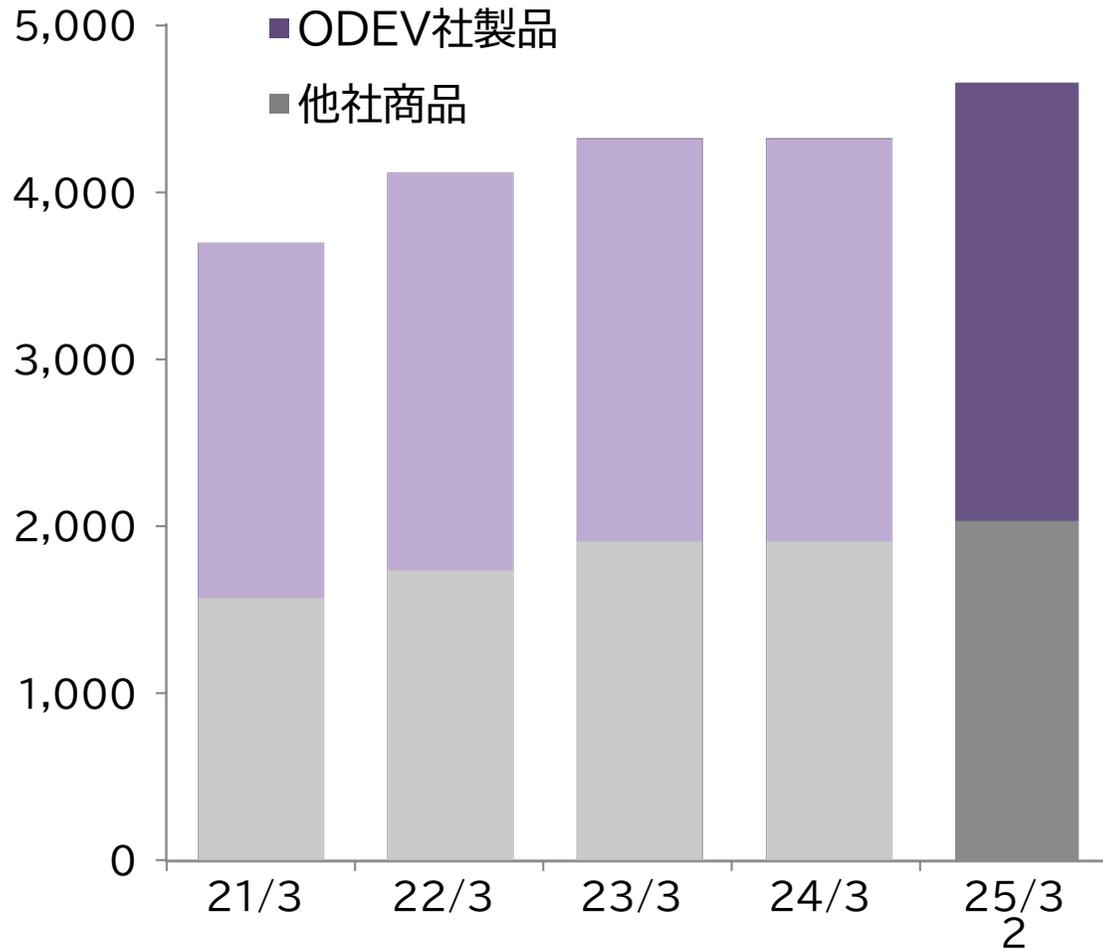
売上高

増減率

4,653百万円

(前年同期比+2.0%)

(単位:百万円)



振り返り

- 大腿骨頸部骨折治療製品
PHS(自社製品)：2桁成長継続

- ASULOCK(他社商品)：
競争激化により、前年同期水準

主力製品・商品



2桁成長



同水準

PHS

PHS Side Plate

ASULOCK

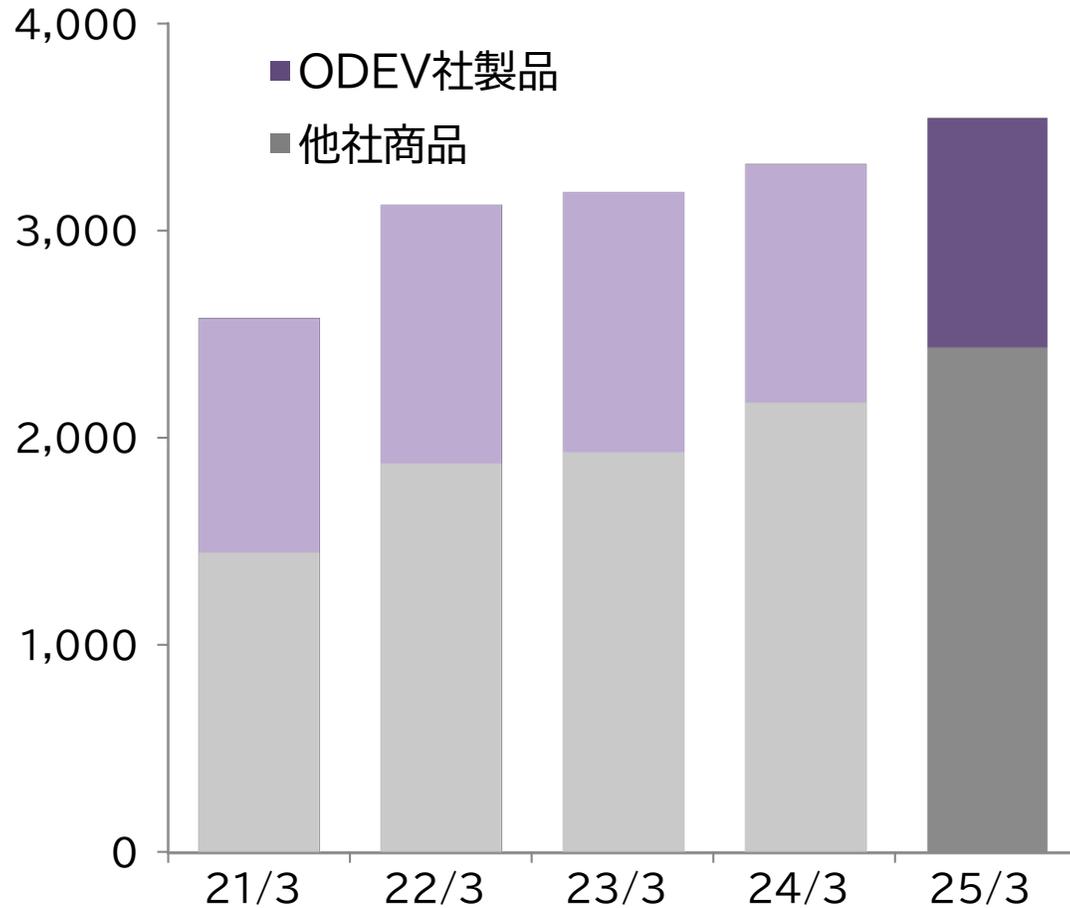


売上高

増減率

3,543百万円
(前年同期比+6.7%)

(単位:百万円)



振り返り

- BKP:KMC Balloon Kyphoplasty (他社商品)
市場拡大に伴い、2桁成長
- 新商品Lince α 、Plate Lince Plate (他社商品)
Pisces (自社製品)：順調
- 新製品Vusion ARCケージ：好調

主力製品・商品



Lince Plate



Lince α Plate



Vusion Ti 3D
ケージ



Vusion ARC
ケージ

好調



2桁
成長

KMC Balloon Kyphoplasty



米国市場





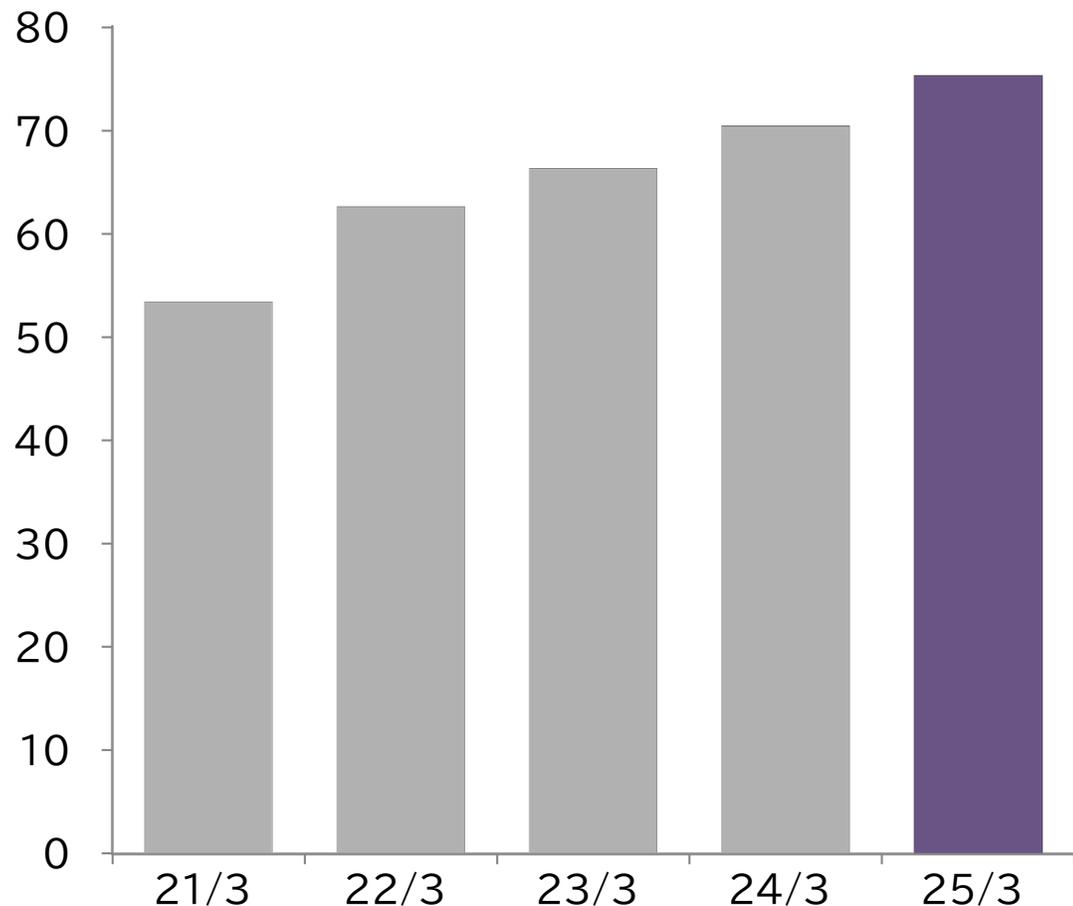
売上高

\$75.2M

増減率

(前年同期比 **+6.9%**)

(単位: Million of dollars)



振り返り

■ **通期最高売上高更新**

(前年同期比 +4,830千USD)

- 前期及び今期獲得した新規顧客が獲得症例数の増加に寄与
- サプライチェーン問題による出荷制限の影響を受け既存顧客からの獲得症例が減少

【期中平均換算レート:152.50円/USD】
 (前年同期:144.41円/USD)



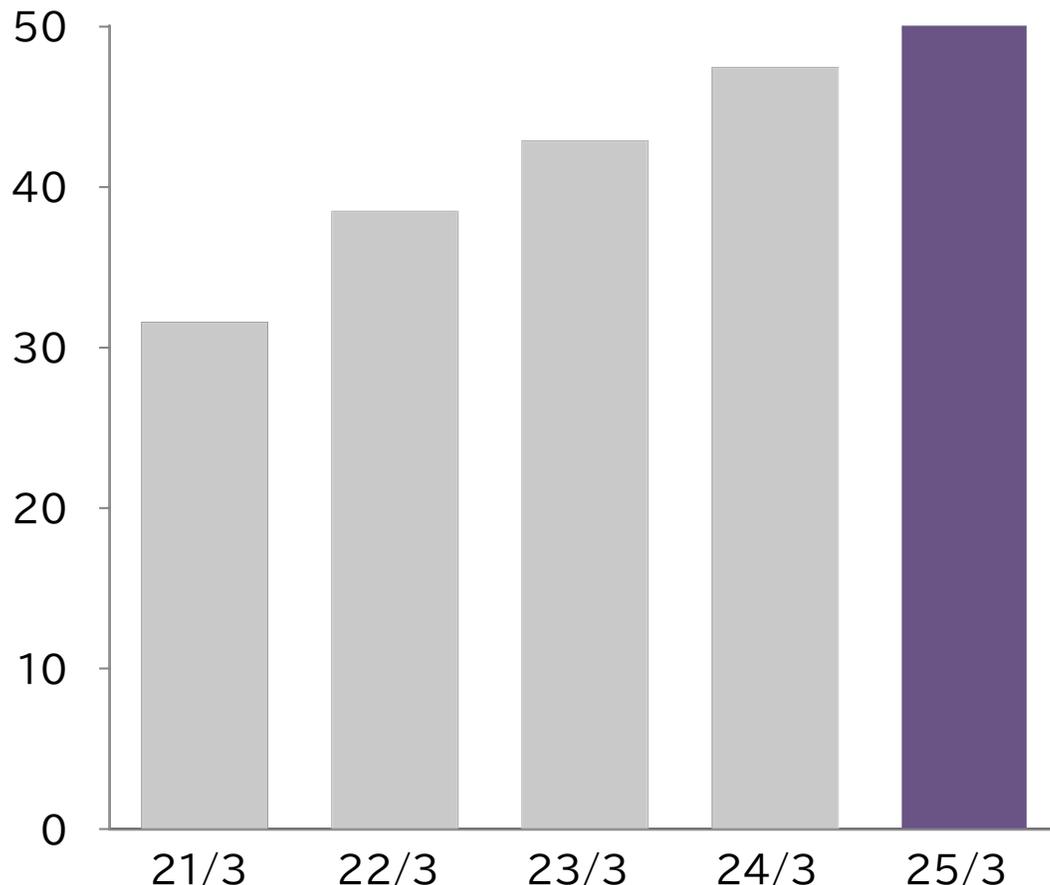
売上高

\$51.8M

増減率

(前年同期比+9.4%)

(単位: Million of dollars)



* DePuy Synthes 社向け「KASM」販売等除く

振り返り

- **BKS TriMax : 2桁成長**
新規顧客、及び既存顧客の症例数増が成長に寄与
- **BKS Uni : 好調**
前期の新規顧客に加え、今期新規顧客の症例数増が成長に寄与

主力製品



2桁成長

BKS TriMax



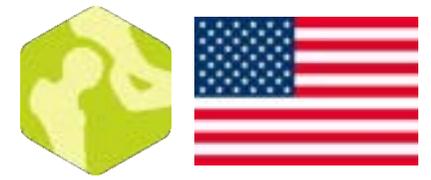
好調

BKS Uni



前年並み

BKS Revision Knee



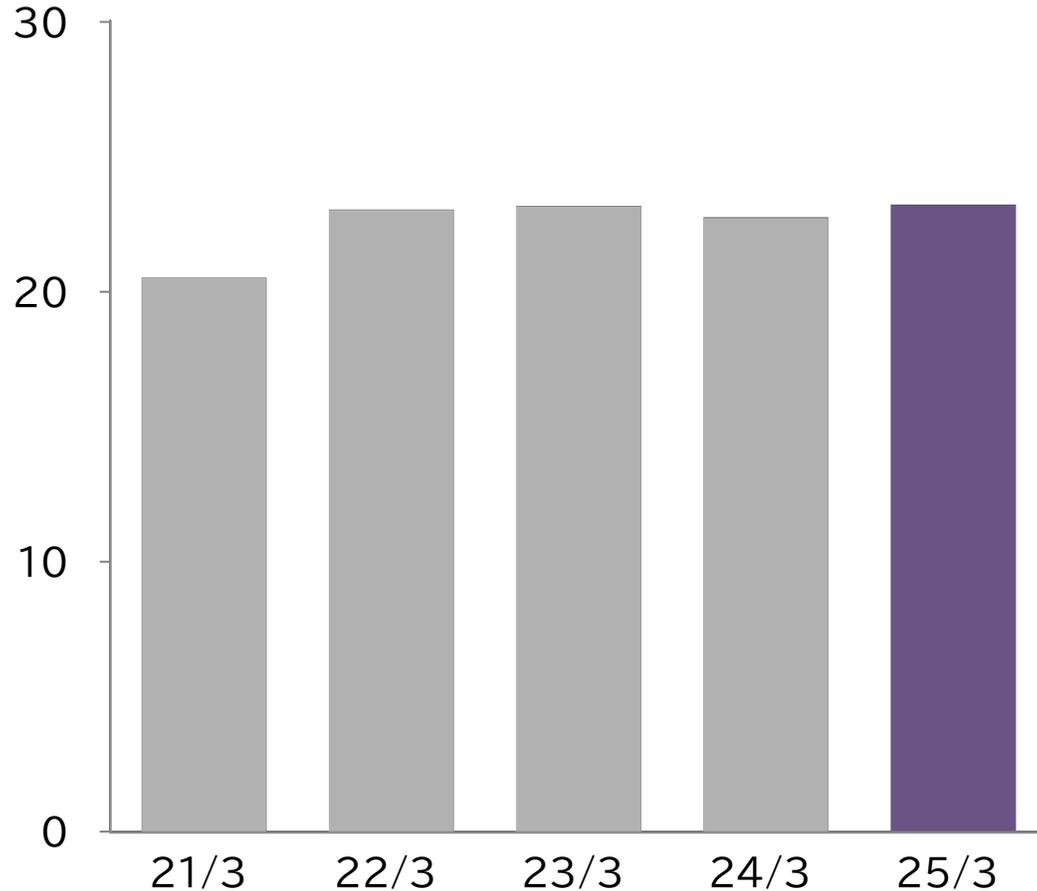
売上高

\$ 23.2M

増減率

(前年同期比+2.0%)

(単位: Million of dollars)



振り返り

- 新製品 Trivicta Hip Stem : 急成長
- Alpine Hip Stem、Ovation Tribute Stem : 成長継続
- Entrada Hip Stem: 獲得症例数減

主力製品



2桁減少

Entrada Hip Stem



2桁成長

Alpine Hip Stem

人工股関節新製品 Trivicta Hip Stem



- 2024年3月、FDA薬事承認取得
- 2024年9月、初症例実施
- 市場トレンドであるTriple TaperタイプのStem導入により、来期の増収を目指す

* DePuy Synthes 社向け「KASM」販売等除く

2

2025年3月期(第53期)の振り返り



東京証券取引所 プライム市場
証券コード:7600

	地域	取組み内容	SAICOプロジェクト取組み状況	
開発		<ul style="list-style-type: none"> 製品ポートフォリオ見直し 		
		<ul style="list-style-type: none"> 製品ラインアップ拡充のために新製品開発を加速 		
製造		<ul style="list-style-type: none"> 自社製造能力強化による製造原価低減 調達力強化によるコスト削減・リスク低減 	23頁	24頁
		<ul style="list-style-type: none"> 中国製人工膝関節の製造開始及び拡大 		
販売		<ul style="list-style-type: none"> 注力製品、新製品による売上高拡大 営業体制の強化(人員増員) 	20頁	21頁
		<ul style="list-style-type: none"> 新製品を梃子に新規顧客獲得 販売ネットワーク強化 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 既存Distributorとの連携強化 ➢ 販売拡大・新規Distributor開拓 	22頁	
		<ul style="list-style-type: none"> 中国製人工膝関節の販売拡大 		

【Promontory ヒップ システム】販売開始(2022年9月)



人工股関節大腿骨システム

Promontory ヒップ システム



【本新製品の特長】

- システムの断面形状が長方形で、断面の角が大腿骨の髓腔に噛み込むことで強固な固定が期待できる
- 大腿骨の形状や骨質に左右されず、幅広い症例に適応が可能
- 脆弱骨の股関節疾患を対象とした人工股関節置換術による治療領域において、当製品の適応症例が拡大し、国内における人工股関節製品の販売拡大につなげる

人工股関節新製品 Ovation Tribute NEO Stem

日本市場において、当社の人工股関節製品群に新たなコンセプトの新製品が加わり、国内販売拡大に期待



人工股関節大腿骨ステム

Ovation Tribute NEO Stem

(2025年3月から日本国内で順次販売)



【本新製品の特長】

- 日本人向けの治療材料として開発
 - ➔ ネット形状が日本人に適しているだけでなく、ステム全長が従来製品より短く、骨温存が可能
- 身長の高い患者さんにも対応
- 医療工具への設備投資抑制に寄与
 - ➔ 従来製品OVATION Tributeヒップステムの医療工具と共通化

人工股関節新製品 Trivicta Hip Stem

米国市場にてニーズが拡大している
トリプル・テーパ形状の新製品導入により、新規顧客獲得を目指す



トリプル・
テーパーステム

人工股関節大腿骨ステム

「Trivicta Hip Stem」

(2024年9月から米国で順次販売)



【本新製品の特長】

- ステムの形状が3つの平面を有するテーパ（トリプル・テーパ）形状
 - ➔ 軟部組織を温存する手術手技に対応しており、患者の多様な髓腔形状にフィットすることが期待
- 焼結ビーズコーティング
 - ➔ ビーズ内での骨成長を促し、長期の安定的な固定の促進を期待
- ハイドロキシアパタイト(HA)コーティング
 - ➔ HAコーティングが生物学的な固定の促進を期待

SAICOプロジェクト取組み状況

SAICOプロジェクトとは・・・

Strategic Actionable Initiatives for Cost Optimizationの略称。
当社グループの「自社製造能力強化によるコスト削減」及び、
「調達力強化によるコスト削減」を目的として発足したプロジェクト

1. 自社製造能力強化による製造原価低減

設備投資による製造能力強化(ODEV社)



ODEV社で増設した製造設備(一例)



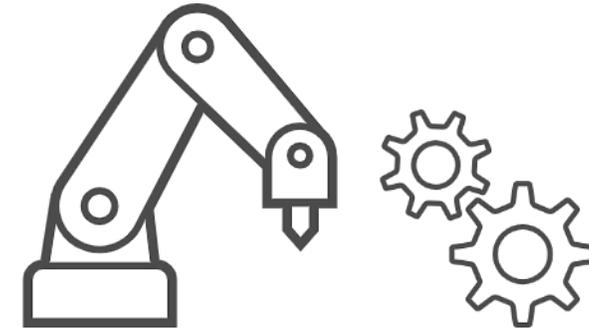
- ODEV社において、製造設備を増設
- 自社製造能力強化を推進中

2-1. 調達力強化によるコスト削減・リスク低減

サプライヤーの複社化(ODEV社)



ODEV社において、製造プロセスの一部を
複数社のサプライヤーに製造委託開始



- 米国におけるサプライヤーの複社化を実現、ODEV社の製造・供給能力の安定化を推進中
- 複社化によるコスト低減を推進中
- マレーシアから一部医療工具を調達し、調達コストを低減

2-2. 調達力強化によるコスト削減・リスク低減

中国製医療工具の米国供給(WOMA社)



人工膝関節製品「BKS TriMax」の医療工具(一部)



- 2024年2月から米国市場向けに、「BKS TriMax」の医療工具を供給開始(実績5百万人民元)、米国での製造より▲30%のコスト削減を実現
- 米国トランプ政権の関税施策により、現在中国からの輸入を一時停止し、米国製造医療工具を医療施設に供給

2-3. 調達力強化によるコスト削減・リスク低減

為替影響を受けにくい地域からの調達による製造原価低減



人工股関節用フェモラルヘッド
新商品「JMDM BIOCERAM AZUL
セラミックヘッド」*1
(2025年3月から日本国内で順次販売)



*1 BIOCERAM AZUL は京セラ株式会社の登録商標

- 主力製品の一部を米国から日本での調達に切り替え、為替リスクを回避し仕入原価の低減が可能

当社連結子会社における和解による損害賠償請求訴訟の解決に関する課題への対処

- 米国子会社での損害賠償請求訴訟(以下、本件訴訟)を重く受け止め、本件訴訟に至る経緯について根本的な原因分析を行うとともに、本件訴訟の被告となった当社米国子会社であるOrtho Development Corporation(以下、ODEV 社)において、再発防止に向けて真摯に取り組んで参ります。ODEV社では、コンプライアンス・プログラムが十分機能しなかったことが、本件の根本的な原因と考えられます。そのため、再発防止策として、以下のような対策を進めて参ります。

(1) チーフ・コンプライアンス・オフィサーの機能強化

独立した専任のチーフ・コンプライアンス・オフィサーを設置し、契約交渉などの諸手続や各種事業活動においてコンプライアンスリスクを孕む取組の内容や状況を監視・牽制し、必要に応じて軌道修正を進める機能の強化を推進して参ります。

(2) コンプライアンス・プログラムの見直し

司法省より公示されている最新のガイダンスを参照の上、ODEV社のコンプライアンス・プログラムの内容の見直しを実施致します。

(3) 従業員に対する教育訓練

従業員に対し、競合他社の従業員や医療関係者と接触する際には、不正競争や雇用契約上の義務違反といったコンプライアンス上の問題が生じないように適正に行動することの重要性について、教育内容を刷新の上、教育訓練を強化し、再発防止を図って参ります。また、定期的な従業員サーベイを通して研修の実効性の検証も継続的に実施してまいります。

サステナビリティを巡る取組み結果

- GHG排出量(Scope1+2) 1,555t 2020年3月期比▲414t(▲21%)削減
- CDP2024 気候変動「B」、水セキュリティ「B-」評価に認定

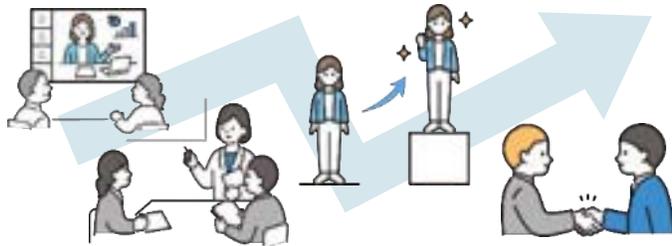
患者QOLの向上



患者QOL向上に資する製品・サービスの開発・商品調達力を強化し医療に貢献

- 市場投入件数:3件
- 整形外科医師向けのエディケーションプログラム2件実施

多様な人材の活躍推進



人的資本経営の強化

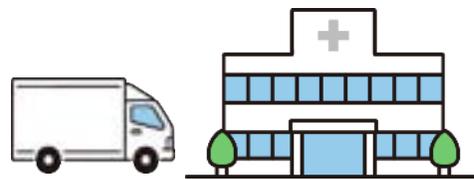
- タレントマネジメント、グローバル人材の育成、エンゲージメント強化推進中

環境負荷の低減



- GHG排出量(Scope1+2) を2020年3月期比▲414t(▲21%)削減
- CDP2024 気候変動に関する調査において「B」、水セキュリティに関する調査において「B-」評価に認定

医療ニーズへの高品質対応



安心で安全な医療機器の安定供給

- ISO13485維持審査指摘事項は0件

人権尊重の取組み



国連グローバル・コンパクト(UNGC)の規範に基づく人権の尊重

- 日本エム・ディ・エム従業員向け人権デューデリジェンスを実施 : 重篤な事案:0件

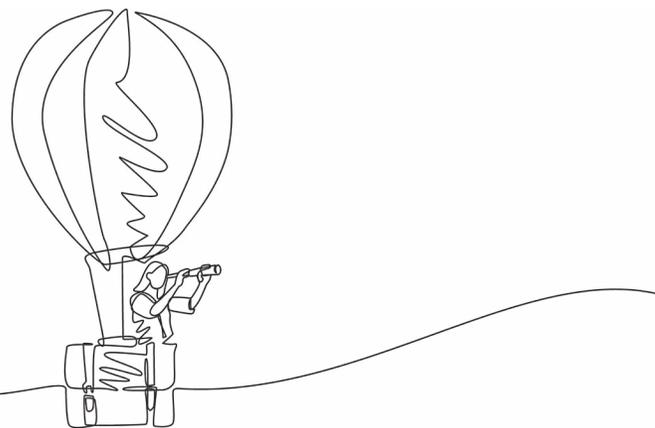
コーポレート・ガバナンスの推進



- コーポレート・ガバナンス・コードへの対応
- リスクマネジメント、コンプライアンス経営の推進
- 子会社を含むコンプライアンス教育の推進

3

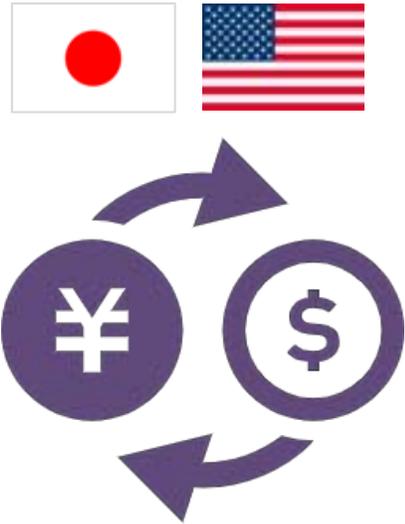
2026年3月期 連結業績予想



東京証券取引所 プライム市場
証券コード:7600

2026年3月期 通期業績予想における前提条件

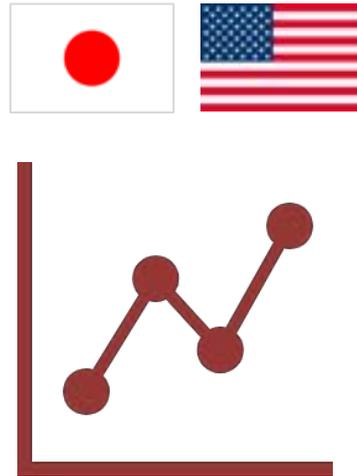
為替レート(USDドル)



想定為替レート
145.0円(円/USDドル)

2025年3月期(実績)
152.5(円/USDドル)

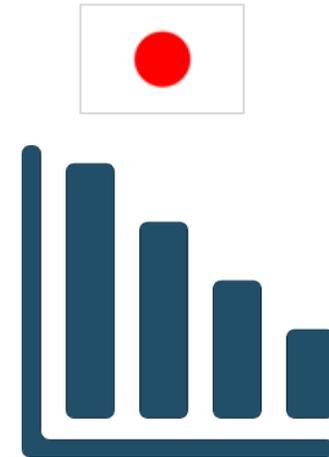
為替感応度



営業利益
1円あたり約25百万円



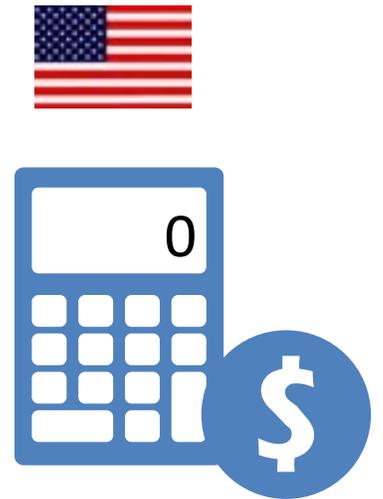
償還価格引下げ



償還価格引下げ影響なし

2025年3月期(実績)
15百万円(0.1%)

製造原価



米国トランプ政権
追加関税
1M US\$影響未反映

NA

(中間)連結損益計算書

(単位:百万円、%)	2026年3月期 中間期		同期比増減		2025年3月期 中間期	
	予想	売上比	増減額	増減率	実績	売上比
売上高	12,250	100.0	+432	+3.7	11,817	100.0
売上原価	4,550	37.1	+239	+5.5	4,310	36.5
販管費	7,110	58.0	+262	+3.8	6,837	57.9
営業利益	600	4.9	△ 69	△ 10.3	669	5.7
経常利益	500	4.1	△ 164	△ 24.8	664	5.6
中間純利益*	350	2.9	△ 146	△ 29.5	496	4.2

* 親会社株主に帰属する中間純利益

(通期)連結損益計算書

(単位:百万円、%)	2026年3月期(通期) 予想		前期比増減		2025年3月期(通期)	
	売上比		増減額	増減率	実績	売上比
売上高	26,400	100.0	+1,285	+5.1	25,114	100.0
売上原価	9,750	36.9	+282	+3.0	9,467	37.7
販管費	14,800	56.1	+709	+5.0	14,090	56.1
営業利益	1,850	7.0	+294	+18.9	1,555	6.2
経常利益	1,700	6.4	+211	+14.2	1,488	5.9
当期純利益※	1,450	5.5	+1,911	-	△ 461	△ 1.8

※親会社株主に帰属する当期純利益

(通期)主要品目別連結売上高

(単位:百万円、%)	2026年3月期 予想		前期比増減		2025年3月期 実績	
	構成比		増減額	増減率	構成比	
日本国内売上高	14,350	54.4	+710	+5.3	13,634	54.3
人工関節	5,500	20.8	+262	+5.0	5,237	20.9
骨接合材料	4,800	18.2	+146	+3.1	4,653	18.5
脊椎固定器具	3,700	14.0	+156	+4.4	3,543	14.1
その他	550	2.1	+142	+34.9	407	1.6
小計	14,550	55.1	+707	+5.1	13,208	55.1
売上控除 *3	▲200	▲0.8	+8	+4.0	▲208	▲0.8
米国売上高 *1	12,050	45.6	+570	+5.0	11,480	45.7
人工関節	12,020	45.5	+566	+4.9	11,449	45.6
脊椎固定器具	30	0.1	+0	+0.0	30	0.1
合計	26,400	100.0	+1,285	+5.1	25,114	100.0
自社製品売上高	21,210	79.7	+766	+3.8	20,443	80.7
USドルベース *2	83,103		+7,824	+10.4	75,279	

*1 期中平均換算レート(円/USドル)

145.00

△7.50

152.50

*2 Thousands of dollars *3 売上控除:収益認識基準適用に伴う控除

	地域	取組み内容	
販売		<ul style="list-style-type: none"> 事業本部制による専門性・営業体制強化による販売拡大 注力製品、新製品による売上高拡大 	
		<ul style="list-style-type: none"> 新製品「Trivicta Hip Stem」の全国展開による販売拡大 UHKAS Meeting等による顧客維持 主要Distributorによる拡販推進、販売ネットワーク強化 	
		<ul style="list-style-type: none"> 中国製人工膝関節の販売拡大 	
開発		<ul style="list-style-type: none"> 人工関節分野製品のαローンチ 	
製造		<ul style="list-style-type: none"> サプライチェーン問題の早期解決、安定供給体制の再構築 SAICOプロジェクトによる製造原価低減 調達力強化によるコスト削減・リスク低減 	
		<ul style="list-style-type: none"> 中国製人工股関節の薬事承認取得、及び製造開始 人工膝関節の製造拡大 	

2026年3月期 売上原価率の見通し

2025年3月期 原価率

➡売上原価は、円安(24年3月期144.4⇒25年3月期152.5)の影響による調達コストの上昇、一時的な生産性低下による自社製造コストの上昇、製品の除却などが重なったことにより、売上原価率が37.7%(前年同期比+1.4%)に上昇

2026年3月期 原価率

➡2026年3月期の売上原価は、円高(25年3月期152.5⇒想定レート145.0)の影響による調達コストの低減、SAICO Projectによる製造原価低減(自社製造拡大、サプライヤー複社化などによるコスト低減、25年3月期Q4に発生した生産性低下による自社製造コスト上昇は改善傾向)により、売上原価率36.9%(前年同期比▲0.8%)を予想

設備投資等推移

(単位:百万円、%)	21/3 実績	22/3 実績	23/3 実績	24/3 実績	25/3 実績	26/3 予想
設備投資	1,586	1,665	1,317	1,916	1,668	2,530
減価償却費 ※	1,386	1,420	1,549	1,595	1,671	1,750
研究開発費	459	485	662	874	959	990

※製造原価算入の減価償却費を含むため、損益計算書上の「減価償却費」とは一致しておりません。

主として成長投資である新製品、症例獲得増を狙うための医療工具への投資を実施する
ODEV社では製造原価低減を目的とした自社製造比率向上のための製造設備へ投資する

4

長期VISION「RT500」1st Stage ローリングプラン 2028



東京証券取引所 プライム市場
証券コード:7600

定量目標

定量目標は、前回公表より1年程度進捗遅れを見込む。サプライチェーン問題の早期解決に取り組み、主に新製品導入による米国売上高の2桁成長復帰により連結売上高拡大とともに、売上原価低減・販管費効率化等により収益性を改善し、最終年度は営業利益率10.6%・ROE8.4%・ROIC7.1%、配当性向30%以上を目標とする

(単位:百万円、%)	1st Stage								2nd Stage	
	2025年3月期				2026年3月期		2027年3月期		2028年3月期	
	予想	売上比	実績	売上比	予想	売上比	目標	売上比	目標	売上比
売上高	25,200	100.0	25,114	100.0	26,400	100.0	28,700	100.0	31,200	100.0
営業利益	1,850	6.2	1,555	6.2	1,850	7.0	2,550	8.9	3,300	10.6
当期純利益*	1,300	5.2	△461	-	1,450	5.5	1,750	6.1	2,350	7.5
ROE	5.0%	-	△1.8	-	5.8%	-	6.6%	-	8.4%	-
ROIC	4.5%	-	3.8%	-	4.3%	-	5.7%	-	7.1%	-
配当性向	30.5%	-	-	-	30.0%	-	30.0%	-	30.0%	-
期中平均換算レート (円/USDドル)	150.0	-	152.5	-	145.0	-	145.0	-	145.0	-

* 親会社株主に帰属する当期純利益

サステナビリティを巡る取組み

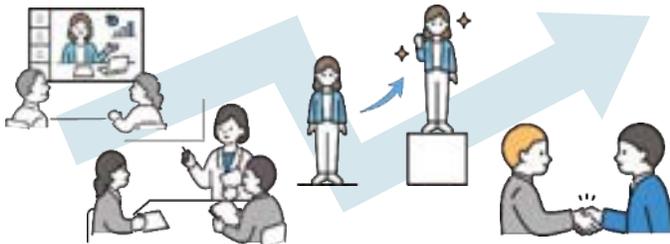
当社グループは、ESG活動を通して非財務的価値を向上させることにより、持続的な企業価値を高めていきます

患者QOLの向上



患者QOL向上に資する製品・サービスの開発・商品調達力を強化し医療に貢献

多様な人材の活躍推進



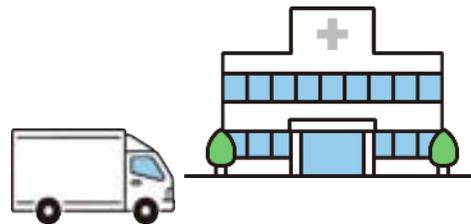
人的資本経営の強化
新人事制度の導入

環境負荷の低減



GHG排出量(Scope1+2)
2020年3月期比30%削減(2030年)

医療ニーズへの高品質対応



安心して安全な医療機器の安定供給

人権尊重の取組み



国連グローバル・コンパクト(UNGC)の規範に基づく人権の尊重

コーポレート・ガバナンスの推進



コンプライアンス経営の強化
コーポレート・ガバナンス・コードへの対応
リスクマネジメント、コンプライアンス教育の推進

最先端の優れた医療機器の開発と販売を通じて、医療に貢献する

お問い合わせ先

株式会社日本エム・ディ・エム IR室

E-MAIL

ir@jmdm.co.jp

IRサイト

<https://www.jmdm.co.jp/ir/>



将来の見通しに関する記述について

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
- 実際の業績等は、様々な要因により大きく異なる可能性があります。